



トレーションが行われたが、違ったのは壇上の国際役員への反応だ。ブランドル候補にはほぼ全員がステージ前面で拍手を送ったが、テイシユナ1候補の時には後方の席に止まり、理事会のブランドル支持が明確に示された。同日の日本ライオンズ代議員会・夕食会でも、メータ国際会長ら執行部とブランドル候補が揃って現れ、日本の支持を求めた。選挙はアメリカ、カナダの票が割れて接戦になるとの下馬評で、日本の票が鍵を握ると考えられたようだ。

日本国内では今回、「日本の声を世界に届けよう」という山田實紘国際理事の呼び掛けで、代議員派遣の重要性が意識されることになった。同じアメリカで開催された2004年のデトロイト大会の305人、昨年の香港でも400人だった代議員が427人まで増え、地元アメリカに次ぐ第2位だった。日本は代議員権を行使しないという悪評を、ひとまずは払拭出来たようだ。注目の代議員投票は最終日4日朝に行われ、国際会則及び付則改正案6項はすべて賛成多数で可決。第2副会長は日